

## 歴史的建築資料整理のための目録化の試み

—『村松コレクション』（その1）—

久保田稔男<sup>1</sup>・宇治田裕子<sup>2</sup>

<sup>1</sup>〒169-0073 東京都新宿区百人町3-23-1 国立科学博物館理工学研究部

<sup>2</sup>〒275-8575 千葉県習志野市泉町1-2-1 日本大学生産工学部建築工学科

### Making of Catalog for Building Parts

—“The MURAMATSU Collection” (No. 1)—

**Toshio KUBOTA<sup>1</sup>, Hiroko UZITA<sup>2</sup>**

<sup>1</sup>Department of Science and Engineering, National Science Museum  
3-23-1 Hyakunin-cho, Shinjuku-ku, Tokyo, 169-0073 Japan

<sup>2</sup>Department of Architecture and Architectural Engineering,  
College of Industrial Technology, Nihon University,  
1-2-1 Izumi-cho, Narashino-shi, Chiba, 275-8575 Japan

#### Abstract

“The MURAMATSU Collection” is a collection of building materials. These materials were gathered by Dr. Tejiro Muramatsu and Dr. Terunobu Fujimori. The principal materials in this collection are bricks. The collection is showing the development of brick and brick work in Japan. The registration method for this collection is described in this paper.

**Key words:** “The MURAMATSU Collection”, Building part, Brick, Catalog, Nomenclature.

#### 緒言

1998年5月および1999年5月の2度にわたり、藤森照信博士（東京大学教授）より国立科学博物館へ、歴史的建造物の部材および歴史的な建設資材等で構成される歴史的建築資料、およそ四百数十点が寄贈された。

本資料は、幕末以降に建てられた建造物に実際に使用された煉瓦を中心に構成されたコレクションである。建築史家の村松貞次郎博士（東京大学名誉教授、1924～1997）が東京大学在職中に収集したもので、後任の藤森博士が引き継ぎ、継続収集して資料の拡充に努めた。このことより以下、本資料を総称して『村松コレクション』と呼ぶ。

博物館で取り扱う資料のうち、近代の歴史的建築資料については、その標準とされる整理方法はまだ確立されていない状況にある。今回、多様な種類からなる『村松コレクション』が国立科学博物館に寄贈された事を機会に、その整理作業をケーススタディとして、歴史的建築資料の整理手法を提案しようと試みるものである。本稿では『村松コレクション』の整理の準備段階として、資料の全体を概観するための目録を試作し、実際に『村松コレクション』のデータをもちいて目録の内容を検討

する。特に本稿では目録に記載された個々のデータと、実際の資料を対応させるべく資料の写真を同時に掲載し、今後の整理・活用の便に供するものとする。

なお『村松コレクション』は多数におよぶため目録及び資料写真は分割掲載とし、本稿はその第1報として、資料番号の1番から89番までを紹介する。

### 1. 資料の構成

『村松コレクション』は、村松貞次郎博士および藤森照信博士が、日本あるいはアジアの国々の近代建築調査のかたわら収集した、19世紀末以降に建設された建造物に関する資料のコレクションである。このコレクションは、歴史的建造物が解体あるいは修復された際に取り外された各種の部材や、長い風雪を経て崩落した部材等で構成されている。現在のところその全貌はまだ把握しきれないが、後述の目録記載の範囲内で採集年月日のわかる資料のうち、最も古いものは1960年に採集されているため、およそ40年の年月を掛けて蓄積されたコレクションであることがわかる。

目録記載の範囲内でコレクションを構成する資料の種類を概観すれば、その中心となる資料は煉瓦であり、およそ7割を占める。これらの煉瓦資料のうち、煉瓦の形状が比較的完全に残されているもので、由来の明確なものについては、1985年4月に横浜開港資料館で開催された『日本の〔赤煉瓦〕展』に出品されており、煉瓦資料に限って言えば、『村松コレクション』は日本近代の煉瓦造建造物の歴史を通覧できるコレクションであるといえる。

煉瓦以外の資料の内容を列記すると、タイル・漆喰片・瓦・金物・ガラス・スレート・鉄骨片・モルタル片・石材片・陶片等が挙げられ、コレクションを構成する資料の種類や形状が多岐にわたることがわかる。

### 2. 資料の状況

『村松コレクション』を構成する資料は、煉瓦を中心に様々な建築部材で構成されている。国立科学博物館寄贈以前の段階では、これらの資料は特に体系立てた整理はなされておらず、個々の資料にラベル等によって資料情報を付与した状態で、専用の棚に収蔵されていた。また一部の資料については未整理の状態で、ラベル等による資料情報が与えられずにそのままに収蔵されていた。

一部の資料については資料情報を記載し写真を貼付した目録状のものが作成されているが、資料の全体を把握できる目録等の一覧は作成されていない。また、この既存の目録については、目録記載の情報から実物の資料を検索するための手だてが講じられていなかったため、今後、資料の整理を行いながら、実物資料と既存目録とを付け合わせる作業が必用である。

寄贈以前の収蔵状況について述べれば、棚上で採集地ごとに簡単な分類が行われていた形跡が見受けられたものの、実際にはだいぶ異同があり、資料の整理にあたって、あらためて分類作業を行う必要がある。

ラベル等による付帯情報のない資料については、資料の概要を把握した上で、資料収集の関係者に聞き取り調査を行い、資料の由来を解明するための手がかりとなる情報を入手しなければならない。

### 3. 資料整理の概要

資料の整理過程を大まかに記せば、①目録の作成、②資料の分類、③資料の体系化並びに評価、の三つの段階に整理される。特にその第一段階である目録の作成は、大量な資料群の全体像を把握する上でも、必用欠くべからざる作業である。しかしながら、歴史的建築資料の整理にあたっては、図書分類や生物分類で行われるような定型化された整理手法は確立されておらず、整理事業に必用な目録

を作成するにあたって、どのような項目を備えたどのような内容の目録を作成すべきかは、これまで論じられていない。

本稿では『村松コレクション』を構成する資料群を事例として、整理のために必要な目録はどのようなものになるのか、以下で検討していく。

#### 4. 目録の試作

目録に記載すべき情報は、資料の観察や由来調査を深めることにより様々なデータとして蓄積される。しかしながらコレクションの概要を把握することが目的の、初期段階での目録作成においてそれを行うことは相応の時間を要し、全資料を概観する目録の早期の完成は困難である。

『村松コレクション』の整理にあたっては、資料から直接読みとれるデータを目録記載の最優先項目とし、それをもとに目録の作成を試みる。以下に最低限必要と思われる整理項目を掲げ、その各項目の記載方法を詳述する。なお各項目は巻末に掲載している実際の目録と対応している。

##### 4-1 資料番号

資料番号は自然数で設定し、暫定的なものとする。これは現段階では「1件」に数える資料をどのように区切ったらよいか、その範囲の設定が流動的であり、後々複数個の資料を「1件」と数える場合も想定されるからである。今後、全資料が目録に記載されたのち分類を行い、いくつかのまとまりを持った形で整理された段階で、最も適当と思われる形式で固有の資料番号を付すこととする。なお巻末の目録では「No.」と略記している。

##### 4-2 資料名称

歴史的建築資料には個々の資料を区別するための名称は存在せず、これまでは採集された時々で自由な名称設定が行われてきた。これは明らかに不便であり、今後、他所に存在する同種の資料と比較検討するような事態が生じた際にも不自由である。よって本稿では以下のような銘々手順を提案し、名称による資料の個別化を試みる。

命名手順：「○○○○<sub>(1)</sub>△△△△<sub>(2)</sub>使用□□□□<sub>(3)</sub>製◇◇◇◇<sub>(4)</sub>」

傍線(1)部分は資料を使用していた建物の名称を記載する。建物の名称は時代により変更される場合があるが、原則としてその建物の竣工時点での名称を採用する。

例：猿島要塞

傍線(2)部分は資料が使用されていた建物の部位名を記載する。

例：2階大トンネル

傍線(3)部分は資料の製造元を記載し、末尾に「製」を付ける。この部分に関しては、刻印などによって製造元が比較的簡便に判明する煉瓦資料に限って記載できる部分であり、多くの歴史的建築資料については、不明なままであることが予想される。

例：東洋組西尾分局土族就産所製

傍線(4)部分には資料の物品名を記載する。

例：煉瓦

傍線(1)・(2)の後は「使用」と記述し、傍線(3)以下と接続する。

例：猿島要塞2階大トンネル使用東洋組西尾分局土族就産所製煉瓦

傍線(1)～(3)の情報のうち、不明なものについては逐次省略する。しかしながら最低限資料がどのようなものか名称で判断できるように、傍線(4)部分は必ず記載する。

同一名称となる資料が複数存在する場合、資料名称の末尾に( )書きで番号をふり区別する。

### 4-3 付帯情報

2章で述べたように、『村松コレクション』を構成する資料は、採集後に何らかの形で資料情報を付与させたものと、未整理で情報を付与していないものとに大別できる。情報が付与された資料については、以下の形式で分類し、書き込まれた情報のすべてを、ありのまま目録に記載する。また、何ら情報が付与されていない資料については、該当部分を「-」で記載する。

#### (1) 直接記載情報

資料に直接インクなどによって書き込まれた情報をいう。書き込みの内容は資料によりまちまちであるが、おおむね資料が使用されていた建物の名称、資料の採集年月日等が記載されている。

#### (2) 貼付ラベル記載情報

資料に貼り付けられた紙片(ラベル)によって得られる情報である。紙片には「件名」・「月日」・「備考」欄が設けられており、それぞれにおおむね以下の情報が記載されている。

##### ①件名

資料の使用されていた建物の名称、もしくは資料を製造した会社名等が記載されている。

##### ②月日

ほとんどのものが資料を採集した年月日を記載しているが、まれに資料が使用されていた建物の建設年が記載されている場合もある。

##### ③備考

主にラベルを添付してある資料が煉瓦の場合、煉瓦単体の寸法あるいは刻印の形状等が記載されている。また、資料の採集場所に関する情報、資料が使用された建物に関する情報、資料そのものに関する所見などが記載されている場合もある。

#### (3) 梱包材等記載情報

資料を梱包している封筒などに記載された情報である。書き込まれる情報は(1)と同様である。時として(2)の貼付ラベルを拡大して梱包材に貼り付け、貼付ラベルと同一内容の情報を記載している場合もある。まれに梱包材にかかれた記述と中身が対応していない場合があり、注意を要する。

#### (4) ネームプレート記載情報

1章で触れたように、煉瓦資料のうちのいくつかは横浜開港資料館で開催された『日本の「赤煉瓦」展』に出品されており、資料にその際作成されたネームプレートが同梱されている場合がある。このネームプレートに記載された情報をいう。まれにネームプレートと実際の資料とが対応していない場合があり、注意を要する。

### 4-4 資料寸法

資料の寸法計測法については、今後検討しなければならないが、とりあえず資料の大まかな大きさを把握する意味で、煉瓦資料に関しては煉瓦単体の寸法を、その他の資料に関しては資料の全長を、縦・横・高さ(煉瓦の場合は、長辺・短辺・高さ)の3方向で計測し記載する。なお単位はミリメートルで記載する。また煉瓦の寸法計測を行う際、破損などによって完全な単体寸法の計測が不可能な場合、「当該箇所の実長+α」の形式で記載する。

### 4-5 写真

資料は1点1点個々に写真を撮影し、その形状が把握できるようにする。特に本稿では、煉瓦資料に関して、その製造元を判別する手がかりとなる刻印部分の写真も同時に掲載する。なお巻末目録に記載の番号は、本稿の写真番号と対応する。

以上の方針に則り、『村松コレクション』の目録を試作した。実例として資料番号1から89までを



巻末に掲載する。目録全般に関わる記載法則として、判読不能の文字は「■」で置き換える。また〔 〕内の記述は、目録作成者による注記である。

## ま と め

多種多様な形態を持つ歴史的建築資料を整理するために、『村松コレクション』をケーススタディーとして、その整理方法を確立すべく試行的な作業を開始した。本稿では整理へ向けての準備段階として、コレクションの全体を把握するための目録の作成手法について検討し、実際の目録を試作した。目録を構成する最低限の整理項目は「資料番号」、「資料名称」、「付帯情報」、「資料寸法」、「写真」の5項目が考えられる。特に「資料名称」については、「付帯情報」のデータに基づき、統一された手順に従った個別の名称設定を行うことが重要である。整理項目やデータ記載の方法は、さらに改良する必要がある。今後資料の体系化に向けて、より利用しやすい形へと手を加えていく。

また今回の目録化は『村松コレクション』の性質上、煉瓦資料の整理の便に重きを置いた、偏った形での整理手法になったといえる。今後、より汎用性を持たせた整理手法の構築を目指すのか、それとも個々の資料の性質に応じて整理手法を変化させ、個別に資料整理を行うべきか、作業を進めながら検討していきたい。

最後に、この度の資料寄贈にあたって、藤森照信博士ならびに故村松貞次郎博士のご遺族の皆様方に対し、心より感謝申し上げます。

## 『村松コレクション』目録（第1部）

No.	資料名称	付帯情報				資料寸法			写真
		直接記載	貼付ラベル 記載	梱包材等 記載	ネーム プレート記載	長	短	高	
1	猿島要塞2階 大トンネル使用 東洋組西尾 分局土族就産 所製煉瓦(1)	—	件名 猿島 月日 1979. 10. 30 備考 大トン ネル2階, 東 洋組西尾分局 土族就産所, 225×(99+α) ×57	—	—	225	99 +α	57	1 2
2	横浜瓦斯局ガ スタック使用 煉瓦(1)	長瓦本 [□中 に], '86. 02. 06 M4 横浜ガ ス局 本町小 学校	—	—	—	228	107	59	3 4
3	愛知東洋組刈 谷分局製煉瓦 (1)	—	—	—	—	223	102	55	5 6
4	亀崎煉瓦工場 製煉瓦	—	—	—	—	209	98	58	7 8
5	東洋組西尾分 局土族就産所 製煉瓦	—	—	—	—	220	105	57	9 10
6	八幡製鉄所東 田高炉使用煉 瓦	—	—	八幡製鉄所東 田高炉 [添付 紙片]	—	228	114	70	11 12
7	八幡製鉄所東 田高炉使用コ ンクリートブ ロック	—	—	八幡製鉄所東 田高炉 [添付 紙片]	—	227	110	62	13
8	松本煉瓦株式 会社製煉瓦	松本煉瓦	—	—	—	210	105	59	14 15
9	愛知東洋組刈 谷分局製煉瓦 (2)	刈谷製 大野 元三先生 '85. 03. 16 (土)	—	—	—	226	110	61	16 17
10	猿島要塞2階 大トンネル使用 東洋組西尾 分局土族就産 所製煉瓦(2)	—	件名 猿島 月日 1979. 10. 30 備考 大トン ネル2階, 東 洋組西尾分局 土族就産所, 225×(78+α) ×60	—	—	225	78 +α	60	18 19

## 『村松コレクション』目録（第1部）

No.	資料名称	付帯情報				資料寸法			写真
		直接記載	貼付ラベル 記	梱包材等 記	ネーム プレート記載	長	短	高	
11	横浜瓦斯局ガ スタンク使用 煉瓦(2)	86.02.06(木) 横浜本町小学 校 グランド 出土 M4 ガ ス局ガスタン クの柱脚基礎 使用 長瓦本 [□中に] ? ×105×59	—	—	—	120 +α	105	60	20 21
12	東京高等裁判 所使用スク ラッチタイ	旧東京高裁	—	—	—	229	60	25	22
13	東京高等裁判 所使用釉薬塗 りスクラッチ タイ	旧東京高裁	—	—	—	227	61	23	23
14	伊豆大島測候 所使用タイル	—	—	伊豆大島測候 所[梱包紙袋]	—	25	25	4	24
15	現国立歴史民 俗博物館出土 漆喰	—	—	歴博(千葉, 佐倉市)	—	85	75	43	25
16	屋久島灯台使 用煉瓦(1)	M30 屋久島灯台	—	明治30年 屋久島灯台 [寸法図解] S61.11.20十 区より[添付 紙片]	—	230	108	53	26
17	東洋組刈谷支 局土族就産所 製瓦	—	—	—	—	355	290	95	27 28
18	現横須賀F12 使用小菅集治 監製煉瓦	87.1.30. ヨ コスカF12 床下換気口 アーチ部	—	—	—	220 +α	110	60	29 30
19	屋久島灯台使 用煉瓦(2)	M30屋久島 灯台 S61.11.20	—	明治30年 屋久島灯台 [寸法図解] S61.11.20十 区より[添付 紙片]	—	210 +α	110	55	31

## 『村松コレクション』目録（第1部）

No.	資料名称	付帯情報				資料寸法			写真
		直接記載	貼付ラベル 記載	梱包材等 記載	ネーム プレート記載	長	短	高	
20	屋久島灯台使用煉瓦(3)	M 30 やくしま灯台 S61. 11. 20	—	明治30年 屋久島灯台 [寸法図解] S61. 11. 20十 区より [添付 紙片]	—	230	108	54	32
21	横浜水道使用煉瓦(1)	ヨコハマ 三 井 水道	—	—	—	233	113	63	33
22	現横須賀F12 使用小菅集治 監製切欠煉瓦	ヨ コ ス カ F12 '87. 1. 30	—	—	—	230	110	60	34
23	九州地方使用 煉瓦	九州	—	—	—	233	115	66	35 36
24	日比谷大ビル 使用スクラッ チタイトル付煉 瓦	日比谷大ビル	—	日比谷大ビル '87 01 30内 田氏■■■ [梱 包ビニール 袋]	—	235	70	50	37
25	御前崎灯台使用 礎連鉄付煉 瓦	御前崎灯台 1-2	—	御前崎 レン ガタイレン鉄 補強 [梱包紙 袋]	—	85	85	25	38
26	横須賀F12 使用煉瓦目地 モルタル	ヨコスカ F 12	—	—	—	85	67	20	39
27	黒澤ビル使用 網入ガラス	—	—	黒澤ビル網入 ガラス [梱包 紙袋]	—	400	200	6	40
28	登米町使用ス レート	—	—	登米の町中の 家田のやつ [添付紙片]	—	270	153	4	41
29	旧帝国大学図 書館使用金町 製瓦会社製煉 瓦	東大旧図書館	—	—	東京・金町製 瓦会社製 旧 帝国大学図書 館使用煉瓦 明治23(1890) 年頃228 mm× 103 mm×58 mm 村松コレ クション	228	103	58	42 43
30	神子畑鉄橋 桁-スパンド レル間使用鉄 鉄	—	—	下流桁とスパ ンドレルとの 間のつめもの [梱包紙袋]	—	308	40	2	44

## 『村松コレクション』目録（第1部）

No.	資料名称	付帯情報				資料寸法			写真
		直接記載	貼付ラベル 記	梱包材等 記	ネーム プレート記載	長	短	高	
31	神子畑鑄鉄橋 使用鑄鉄	—	—	川[梱包紙袋]	—	210	70	50	45
32	神子畑鑄鉄橋 手摺-桁間使 用鑄鉄	—	—	明治16-18年 神子畑鑄鉄橋 鍊鉄 上流 田側テスリと ケタのアンコ ウ[梱包紙袋]	—	145	40	10	46
33	神子畑鑄鉄橋 アーチリブ下 フランジ使用 鑄鉄	—	—	明治16-18年 神子畑鑄鉄橋 鑄鉄片田んぼ 側上流アーチ リブ下フラン ジ[梱包紙袋]	—	110	40	18	47
34	羽淵鑄鉄橋手 摺使用鑄鉄	—	—	明治16年-18 年 神子畑鑄 鉄橋鑄鉄（羽 淵・手すり） [梱包紙袋]	—	195	50	40	48
35	神子畑鑄鉄橋 帯金使用鑄鉄	—	—	田側, 上流■ 内側, 帯金片 [梱包紙袋]	—	122	27	7	49
36	日本煉瓦製造 会社製煉瓦	—	件名 日本煉 瓦株式会社 月日 79 10 20 備考 220 × 105 × 55	—	日本煉瓦製造 会社製普通煉 瓦 工場所在 地「上敷免製」 の刻印入。縮 緬状の表面は 機械成形によ るピアノ線切 断跡。220mm × 105 mm × 55 mm 村松コレ クション	220	105	55	50 51
37	サッポロビー ル恵比寿工場 使用日本煉瓦 製造会社製煉 瓦	サッポロビー ル恵比寿工場 恵比寿ビール (90 11 19 収 集) ■. M20 ■90 11 19 収 集	—	—	—	160 +α	119	58	52 53
38	浮彫付タイル	—	—	—	—	166	166	45	54 55

## 『村松コレクション』目録 (第1部)

No.	資料名称	付帯情報				資料寸法			写真
		直接記載	貼付ラベル記載	梱包材等記載	ネームプレート記載	長	短	高	
39	品川ガラス工場薬品庫使用和釘	—	—	品川ガラス(薬品庫)和釘 1961. 2. 27 採集 12 cm×2.5 (頭部分) [梱包紙袋] 6号 台場陳屋釘 60 11 04 [梱包紙袋]	—	125	32	20	56
40	品川ガラス工場薬品庫使用目地モルタル	—	—	品川ガラスレンガ目地(薬品庫) 1961. 2. 27. 採集 83. 4. 13 整理 N [梱包紙袋]	—	45	35	10	57
41	三井銀行京都店使用タイル	—	件名 三井銀行京都店タイル辺 月日 82. 02. 26 採取備考 T3. 鈴木禎次設計 [寸法図解]	三井ビル(京都店). タイル辺 82. 2. 26 採取 T. 3. 鈴木禎次設計 [梱包紙袋]	—	130	40	9	58
42	泉布館煉瓦倉庫使用目地モルタル	泉布館 1960. 2. 7. 採集 レンガ倉庫, 南側レンガ, モルタル辺	—	—	—	60	50	30	59
43	煉瓦 (1)	—	—	—	—	245	120	65	60
44	煉瓦 (2)	—	—	—	—	255	120	70	61
45	神戸下水道卵形管使用煉瓦 (1)	—	件名 神戸下水道用煉瓦 月日 83. 10. 05 備考 外国人居留地卵形管「下」 223×110×55.33	—	—	223	110	55 33	62 63
46	豊多摩監獄使用煉瓦	—	件名 旧豊多摩監獄使用煉瓦 月日 83. 06. 24 備考 煉瓦長手に小突 2 箇所	—	—	224	107	57	64

## 『村松コレクション』目録（第1部）

No.	資料名称	付帯情報				資料寸法			写真
		直接記載	貼付ラベル記載	梱包材等記載	ネームプレート記載	長	短	高	
47	現横須賀米軍基地B 42使用煉瓦	—	件名 横須賀米軍基地内煉瓦 月日83.09.06 備考 B 42 在.年代,使用ともに不明	—	—	208	99	58	65
48	神戸下水道卵形管使用煉瓦(2)	—	件名 神戸下水道用煉瓦 月日83.10.05 備考 外国人居留地卵形下水道用.「中」 222 × 108 × 57.40	—	—	222	108	57 40	66 67
49	開拓使茂辺地煉化石製造所製煉瓦(1)	—	件名 茂辺地(明治七年)煉瓦 月日83.07.01 備考「明治七年」? ? × 103 × 54	—	—	85 +α	103	54	68 69
50	楔形煉瓦	—	—	—	—	220	110	55 35	70
51	小菅ドック捲上げ機小屋使用蒟蒻煉瓦	—	件名 小菅ドック捲上げ機小屋在蒟蒻煉瓦 月日83.10.27 備考 通称そろばんドッグ敷地内・在?	—	—	170 +α	108	43	71
52	開拓使茂辺地煉化石製造所製煉瓦(2)	—	件名 茂辺地(明治七年)煉瓦 月日83.07.01 備考「明治七年」「函館製造」? ? × 108 × 54	—	—	105 +α	108	54	72 73
53	開拓使茂辺地煉化石製造所製黒煉瓦	—	件名 茂辺地(明治九年)黒煉瓦 月日83.07.01 備考「明治九年函館製造」? ? × 102 × 49	—	—	105 +α	102	49	74 75

## 『村松コレクション』目録（第1部）

No.	資料名称	付帯情報				資料寸法			写真
		直接記載	貼付ラベル 記載	梱包材等 記載	ネーム プレート記載	長	短	高	
54	金森誠之邸使用有孔煉瓦	—	件名 金森誠之邸 月日 80 04 26 備考 213 × 101 × 60	—	—	213	101	60	76
55	煉瓦刻印石膏型及モルタル片	—	—	—	—	100	85	10	77
56	住友横浜使用敷瓦(1)	—	件名 住友横浜敷瓦 月日 “ 備考 掘採集, 15 × 15 2枚茶色	—	—	150	150	12	78
57	住友横浜使用敷瓦(2)	—	件名 住友横浜敷瓦 月日 ? 備考 掘採集茶色 (15 × 15 × 2枚)(タイル) 15.5 × 15	—	—	150	150	12	79
58	蒟蒻煉瓦(1)	—	—	—	—	250	125	35	80
59	蒟蒻煉瓦(2)	—	—	—	—	255	125	37	81
60	蒟蒻煉瓦(3)	—	—	—	—	290	155	45	82
61	蒟蒻煉瓦(4)	—	—	—	—	285	155	45	83
62	蒟蒻煉瓦(5)	—	—	—	—	230	105	40	84 85
63	蒟蒻煉瓦(6)	—	—	—	—	235	105	45	86 87
64	横浜水道取水場使用煉瓦	横浜 三井創設 水道 取水場	—	—	—	200	100	60	88 89
65	安積鉄道トンネル使用煉瓦(1)	M 32 あさか 鉄道トンネル	—	—	—	230	110	55	90 91
66	安積鉄道トンネル使用煉瓦(2)	M 32 安積 鉄道トンネル	—	—	—	235	115	60	92 93



## 『村松コレクション』目録（第1部）

No.	資料名称	付帯情報				資料寸法			写真
		直接記載	貼付ラベル 記載	梱包材等 記載	ネーム プレート記載	長	短	高	
67	東京銀行使用 御影石	—	件名 東京銀行 みかげ石部分 月日 1973 解体時 掘	—	—	230	140	65	94
68	研数学館使用 タイル	—	—	研数 学館 [梱包紙袋]	—	78	53	15	95
69	「■T」刻印煉 瓦	3	—	—	—	135 +α	100	60	96 97
70	羅典神学校使用 蒟蒻煉瓦 (1)	—	件名 羅典神 学校在蒟蒻煉 瓦 月日 83.10.28 備考 同学校の 基礎に同様の 煉瓦あり	—	—	175 +α	115	40	98 99
71	荒木窯業製煉 瓦	福岡県久留米 荒木窯業	—	—	—	210	100	60	100 101
72	横須賀鎮守府 測候所使用小 菅集治監製煉 瓦	—	横須賀鎮守府 測候所 '84.07.14 (土) by 西 澤 ほか 2 名	—	—	230	110	60	102 103
73	「MRK」刻印 煉瓦	M [○中に] S 23 ~ S 28 MRK の ■ ■ ■ [JIS?] なし S28~S39 (プ レス) MRK JIS [○中に]	—	—	—	200	100	60	104 105
74	開拓使茂辺地 煉化石製造所 製煉瓦 (3)	—	件名 茂辺地 (明治十一年) 煉瓦 月日 83.07.01 備考 「明治十 一年 函館製 造」 226×112 ×57	—	—	220	112	60	106 107
75	銀座煉瓦街使 用煉瓦 (1)	銀座 '85.4.6	—	—	—	230	110	60	108
76	荒木窯業製煉 瓦	久留米 荒木 窯業	—	—	—	215	100	60	109 110
77	銀座煉瓦街使 用煉瓦 (2)	ギンザ	—	—	—	280 180	110	60	111

## 『村松コレクション』目録（第1部）

No.	資料名称	付帯情報				資料寸法			写真
		直接記載	貼付ラベル記載	梱包材等記載	ネームプレート記載	長	短	高	
78	菅島灯台使用煉瓦	菅島灯台菅島跡地・85 05 04 by ふ氏	—	—	—	230	115	50	112 113
79	長崎水道本河内浄水場濾水池使用長崎監獄製煉瓦	—	件名 本河内浄水場在煉瓦 月日83.10.28 備考「〇」220×107×60	—	長崎創設水道用長崎監獄製煉瓦 設計・吉村長策 明治22-24(1889-91)年本河内浄水場濾水地の下床に使用されたもの。223mm×107mm×60・223mm×110mm×60mm 村松コレクション(長崎市水道局提供)	220	107	60	114 115
80	羅典神学校使用蒟蒻煉瓦(2)	—	件名 羅典神学校在蒟蒻煉瓦 月日83.10.28 備考 塼印あり	—	蒟蒻煉瓦 長崎市南山手より採取。228mm×111mm×49mm 村松コレクション	230	110	50	116 117
81	ジェラール瓦煉瓦石製造所製煉瓦	—	件名 横浜 月日 備考 ジラード煉瓦224×110×65	—	ジェラール煉瓦 224mm×110mm×65mm 村松コレクション	224	110	65	118 119
82	明治学院神学部校舎使用横浜煉化製造会社製煉瓦	—	件名 明治学院大学 月日79.1.1 備考 宍戸実寄贈 229×104×60	—	横浜煉化製造会社製明治学院神学部校舎使用煉瓦 229mm×104mm×60mm 村松コレクション(宍戸実氏提供)	230	105	60	120 121

## 『村松コレクション』目録 (第1部)

No.	資料名称	付帯情報				資料寸法			写真
		直接記載	貼付ラベル記載	梱包材等記載	ネームプレート記載	長	短	高	
83	横浜水道使用煉瓦 (2)	—	件名 創設横浜水道レンガ 月日 82 12 10 採集 (F) 備考 神奈川県つくい郡つくい町大字三田 角積。ななめレンガ	—	—	135 +α	110	65 50	122
84	小菅集治監製煉瓦	小菅拘置所	小菅刑務所 77. 4. 28 106×222×58	—	—	222	106	58	123 124
85	横浜下水道使用煉瓦	—	件名 横浜居留地 月日 備考 横浜・煉瓦造下水道用煉瓦 伊藤三千雄(採取) 226×110×62 40	—	—	230	110	65 40	125 126
86	大阪造幣寮使用堺製煉瓦	い可さ 利ちだひ[?] 七号室入口楣	件名 月日 備考 7号室入口 楣 218 × 113×56	—	大阪造幣寮用煉瓦 大阪府堺の地で焼かれたもの。 218 mm × 113 mm × 56 mm 村松コレクション	220	113	55	127 128
87	吉名製煉瓦	吉名煉瓦	—	—	—	210	100	58	129 130
88	千葉監獄用小菅集治監製煉瓦 (1)	—	件名 千葉刑務所 月日 昭和 58 年 4 月 備考 藤森照信	—	千葉監獄用小菅集治監製煉瓦 設計・司法省 明治 34-40 (1901-07) 年 222 mm × 105 mm × 60 mm 村松コレクション	225	105	60	131 132
89	千葉監獄用小菅集治監製煉瓦 (2)	—	件名 千葉刑務所 月日 80 02 21 備考 225 × 108 × 63 東及中央 房舎 M 34~40. 4	—	小菅集治監製煉瓦 222 mm × 106 mm × 58 mm 村松コレクション	225	108	65	133 134



写真1 猿島要塞2階大トンネル使用東洋組  
西尾分局土族就産所製煉瓦(1) [資料  
No. 1]

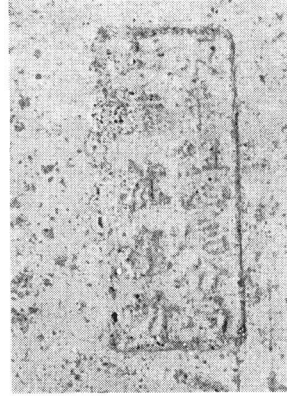


写真2 同前刻印 [資料 No. 1]

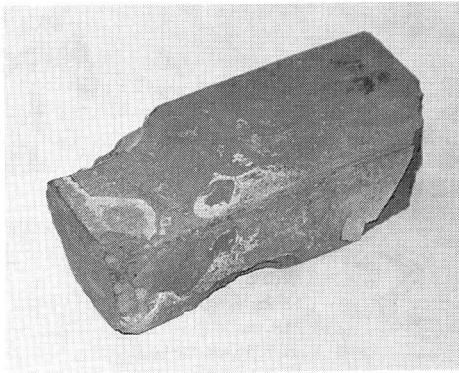


写真3 横浜瓦斯局ガスタンク使用  
煉瓦(1) [資料 No. 2]

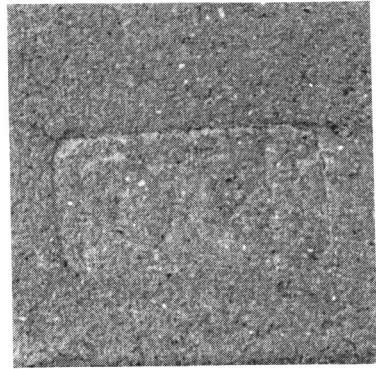


写真4 同前刻印 [資料 No. 2]

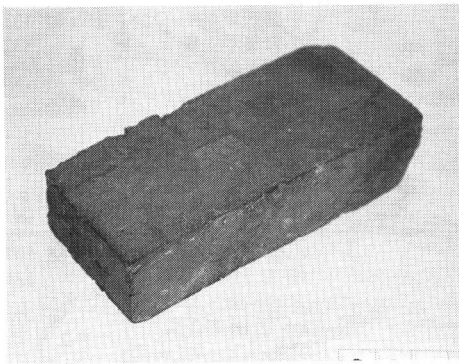


写真5 愛知東洋組刈谷分局製煉瓦(1)  
[資料 No. 3]



写真6 同前刻印 [資料 No. 3]



写真7 亀崎煉瓦工場製煉瓦 [資料 No. 4]

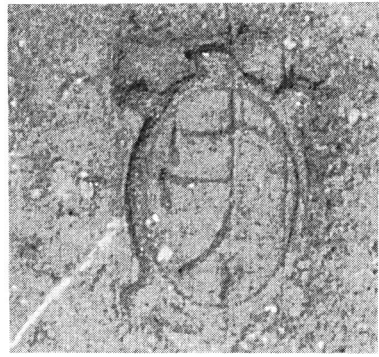


写真8 同前刻印 [資料 No. 4]



写真9 東洋組西尾分局土族就産所製煉瓦 [資料 No. 5]

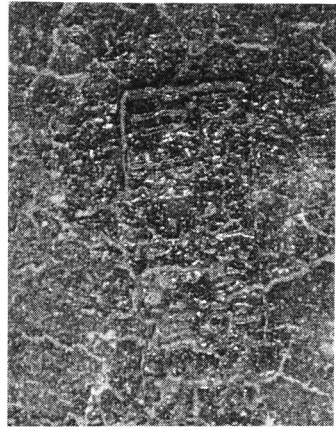


写真10 同前刻印 [資料 No. 5]



写真11 八幡製鉄所東田高炉使用煉瓦 [資料 No. 6]

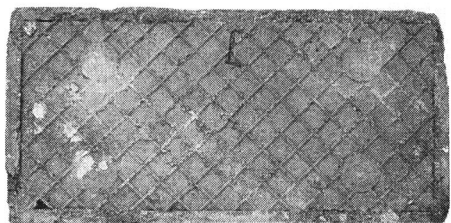


写真12 同前刻印 [資料 No. 6]



写真13 八幡製鉄所東田高炉使用コンクリートブロック [資料 No. 7]



写真14 松本煉瓦株式会社製煉瓦 [資料 No. 8]

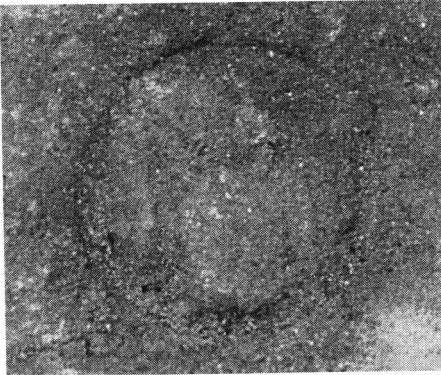


写真15 同前刻印 [資料 No. 8]



写真16 愛知東洋組刈谷分局製煉瓦(2) [資料 No. 9]



写真17 同前刻印 [資料 No. 9]

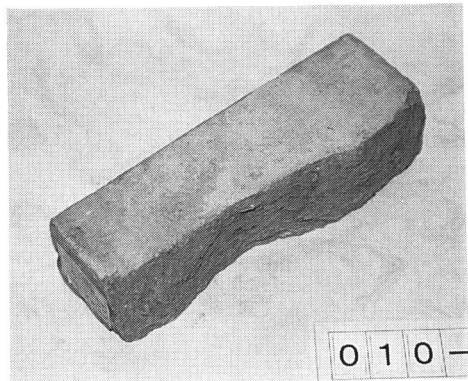


写真18 猿島要塞2階大トンネル使用東洋組西尾分局土族就産所製煉瓦(2) [資料 No. 10]



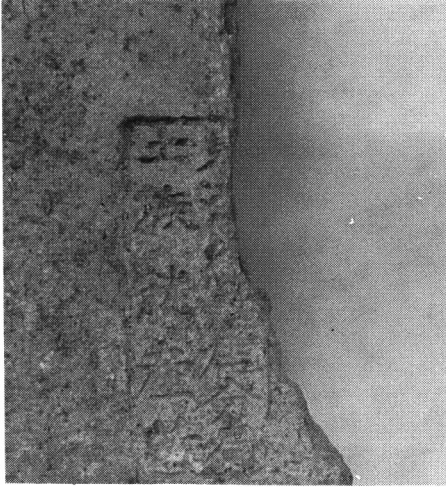


写真19 同前刻印 [資料 No. 10]

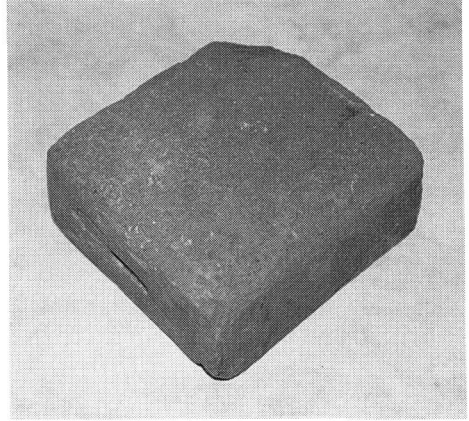


写真20 横浜瓦斯局ガスタンク使用煉瓦(2)  
[資料 No. 11]



写真21 同前刻印 [資料 No. 11]

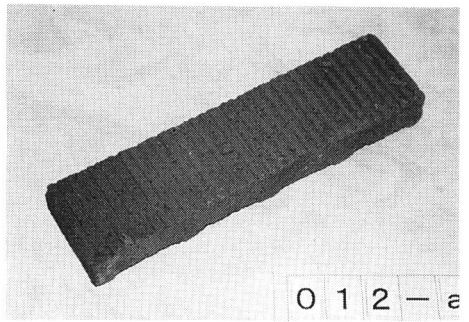


写真22 東京高等裁判所使用スクラッチタ  
イル [資料 No. 12]

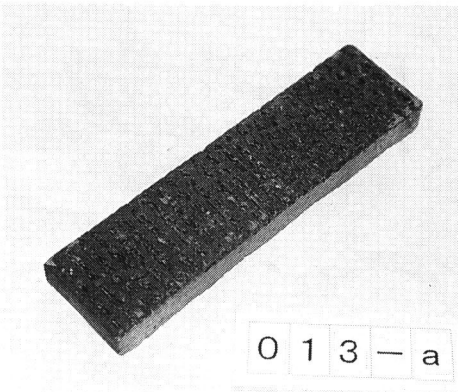


写真23 東京高等裁判所使用釉薬塗リスク  
ラッチタイル [資料 No. 13]

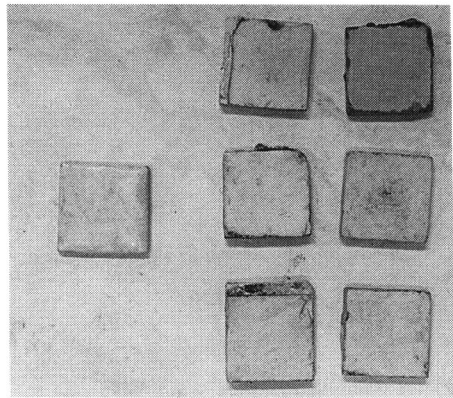


写真24 伊豆大島測候所使用タイル  
[資料 No. 14]

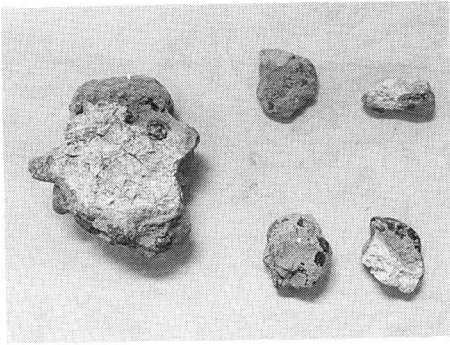


写真 25 現国立歴史民俗博物館出土漆喰  
[資料 No. 15]



写真 26 屋久島灯台使用煉瓦(1)  
[資料 No. 16]

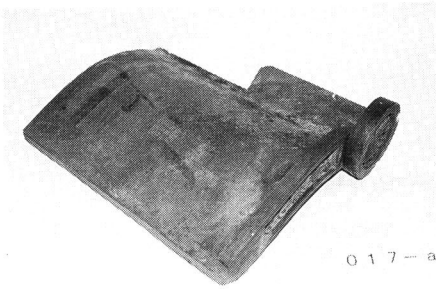


写真 27 東洋組刈谷支局土族就産所製瓦  
[資料 No. 17]



写真 28 同前刻印 [資料 No. 17]



写真 29 現横須賀 F12 用小菅集治監製煉瓦  
[資料 No. 18]



写真 30 同前刻印 [資料 No. 18]





写真 31 屋久島灯台使用煉瓦 (2)  
[資料 No. 19]

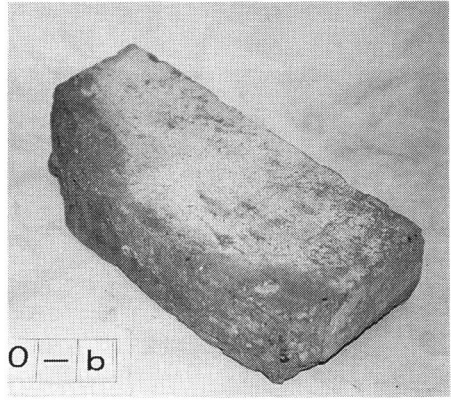


写真 32 屋久島灯台使用煉瓦 (3)  
[資料 No. 20]



写真 33 横浜水道使用煉瓦 (1)  
[資料 No. 21]

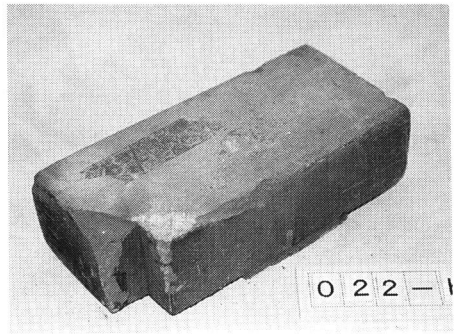


写真 34 現横須賀 F12 用小菅集治監製切欠煉瓦 [資料 No. 22]

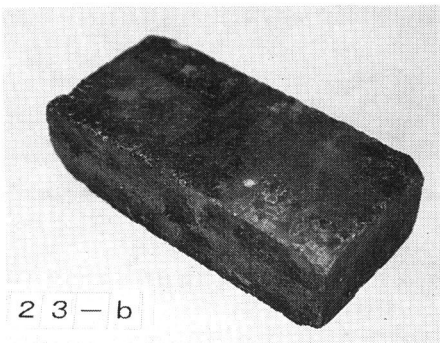


写真 35 九州地方使用煉瓦 [資料 No. 23]

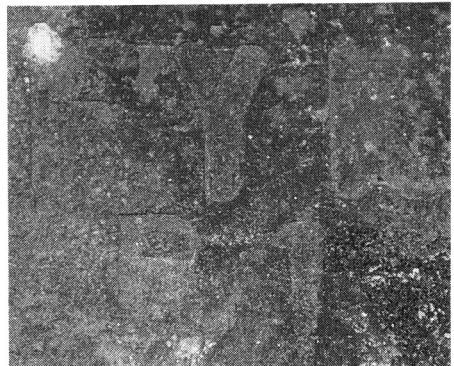


写真 36 同前刻印 [資料 No. 23]

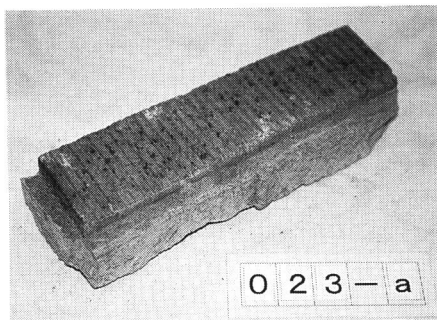


写真 37 日比谷大ビル使用スクラッチタイル  
付煉瓦 [資料 No. 24]

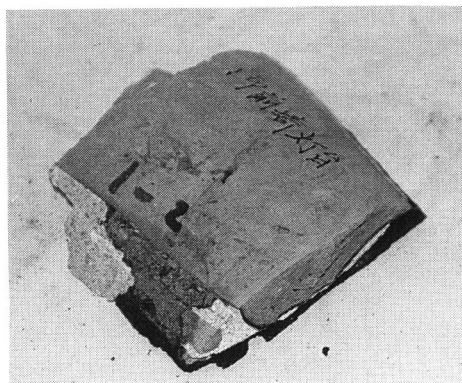


写真 38 御前崎灯台使用碇連鉄付煉瓦  
[資料 No. 25]

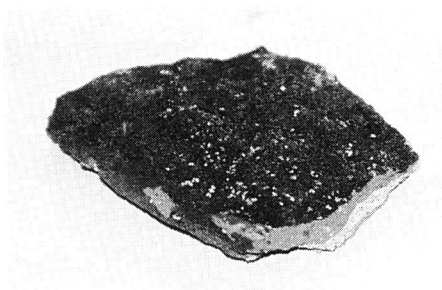


写真 39 横須賀 F12 使用煉瓦目地モルタル  
[資料 No. 26]

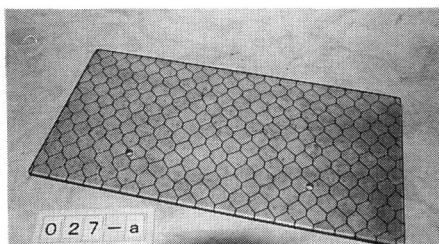


写真 40 黒澤ビル使用網入ガラス  
[資料 No. 27]

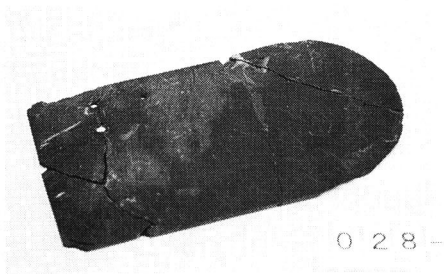


写真 41 登米町使用スレート  
[資料 No. 28]

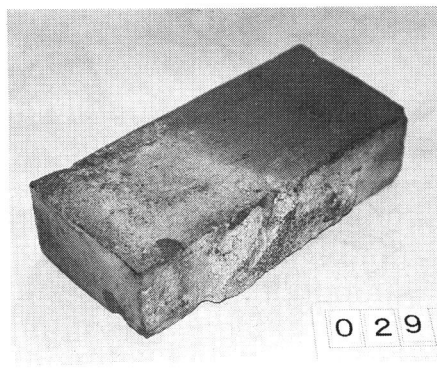
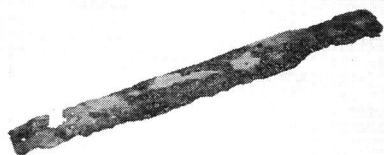


写真 42 旧帝国大学図書館使用金町製瓦会社  
製煉瓦 [資料 No. 29]

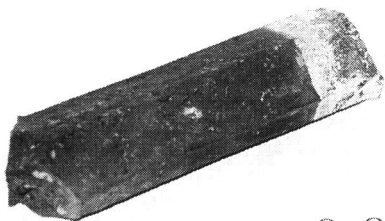


写真 43 同前刻印 [資料 No. 29]



030-b

写真 44 神子畑铸铁橋桁-スパンドレル間使用铸铁 [資料 No. 30]



031

写真 45 神子畑铸铁橋使用铸铁 [資料 No. 31]

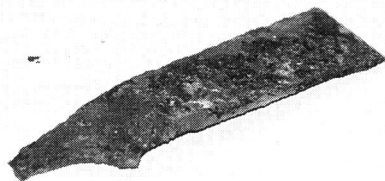
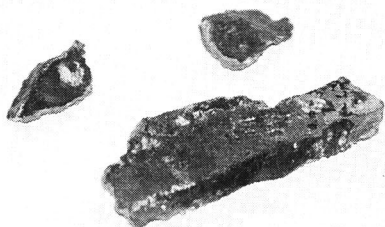
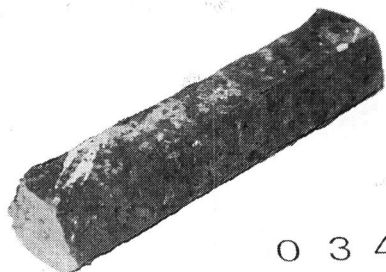


写真 46 神子畑铸铁橋手摺-桁間使用铸铁 [資料 No. 32]



033

写真 47 神子畑铸铁橋アーチリブ下フランジ使用铸铁 [資料 No. 33]



034-

写真 48 羽淵铸铁橋手摺使用铸铁 [資料 No. 34]

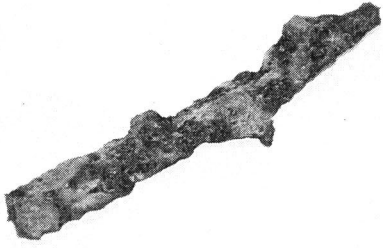


写真 49 神子畑鑄鉄橋帯金使用鑄鉄  
[資料 No. 35]



写真 50 日本煉瓦製造会社製煉瓦  
[資料 No. 36]

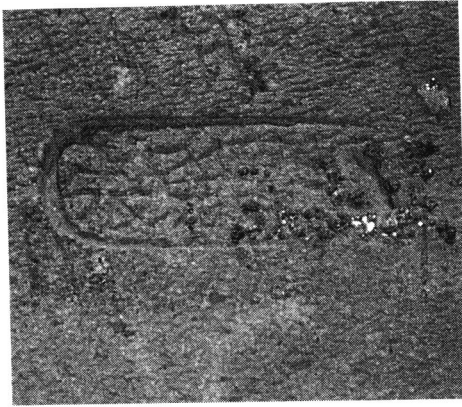


写真 51 同前刻印 [資料 No. 36]

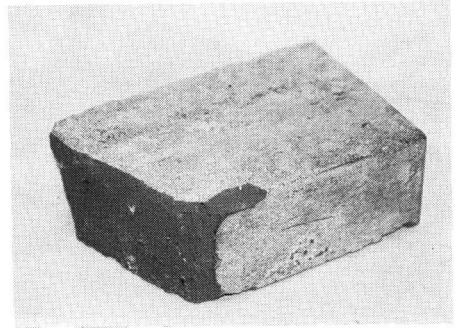


写真 52 サッポロビール恵比寿工場使用日本  
煉瓦製造会社製煉瓦 [資料 No. 37]



写真 53 同前刻印 [資料 No. 37]



38 - a

写真 54 浮彫付タイル [資料 No. 38]



写真 55 同前刻印 [資料 No. 38]

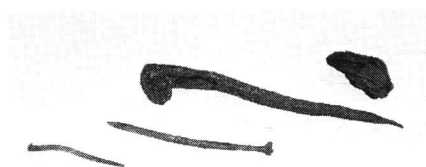


写真 56 品川ガラス工場薬品庫使用和釘  
[資料 No. 39]

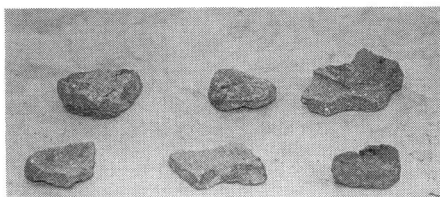


写真 57 品川ガラス工場薬品庫使用目地モルタル  
[資料 No. 40]



写真 58 三井銀行京都店使用タイル  
[資料 No. 41]

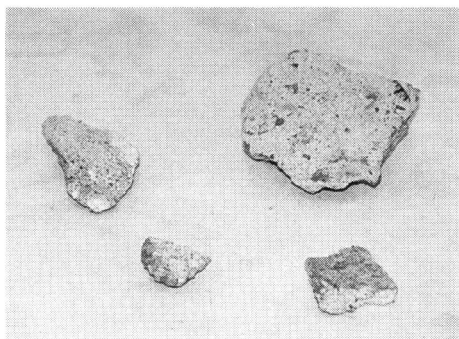


写真 59 泉布館煉瓦倉庫使用目地モルタル  
[資料 No. 42]



写真 60 煉瓦 (1) [資料 No. 43]





写真 61 煉瓦(2) [資料 No. 44]



写真 62 神戸下水道卵形管使用煉瓦(1) [資料 No. 45]

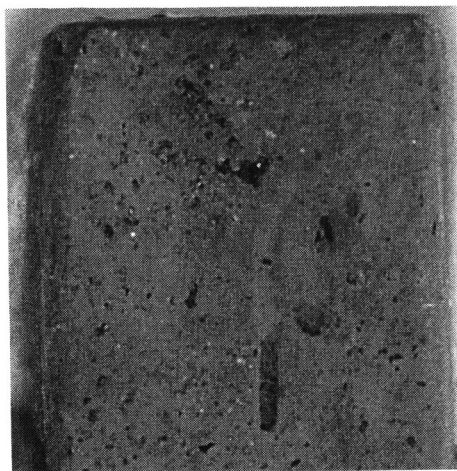


写真 63 同前刻印 [資料 No. 45]



写真 64 豊多摩監獄使用煉瓦 [資料 No. 46]

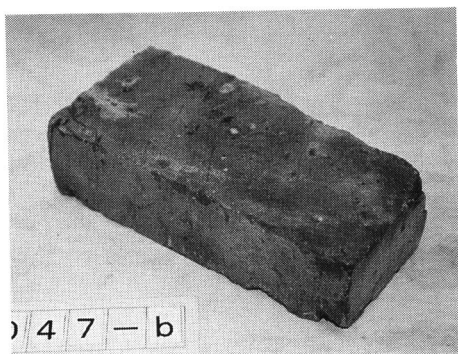


写真 65 現横須賀米軍基地 B42 使用煉瓦 [資料 No. 47]

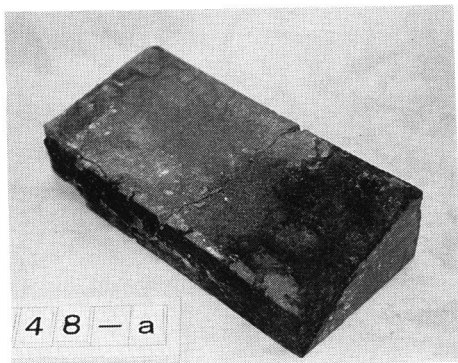


写真 66 神戸下水道卵形管使用煉瓦(2) [資料 No. 48]



写真67 同前刻印 [資料 No. 48]

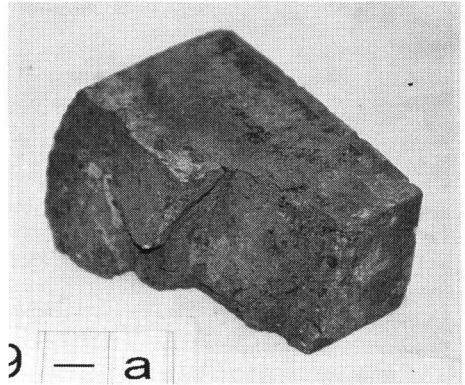


写真68 開拓使茂辺地煉化石製造所製煉瓦  
(1) [資料 No. 49]

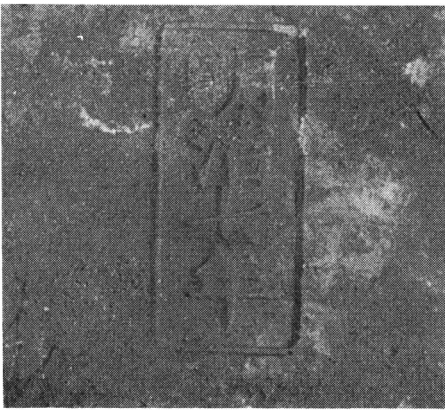


写真69 同前刻印 [資料 No. 49]



写真70 楔形煉瓦 [資料 No. 50]

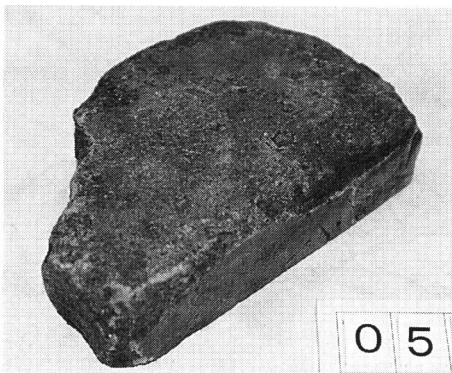


写真71 小菅ドック捲上げ機小屋使用蒟蒻  
煉瓦 [資料 No. 51]

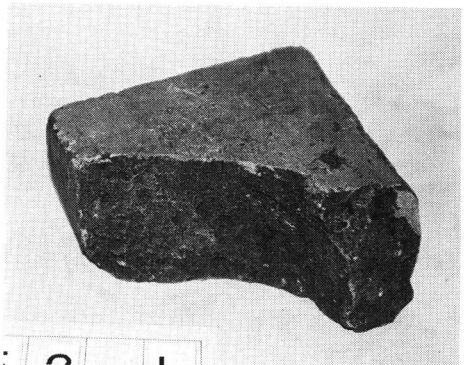


写真72 開拓使茂辺地煉化石製造所製煉瓦  
(2) [資料 No. 52]

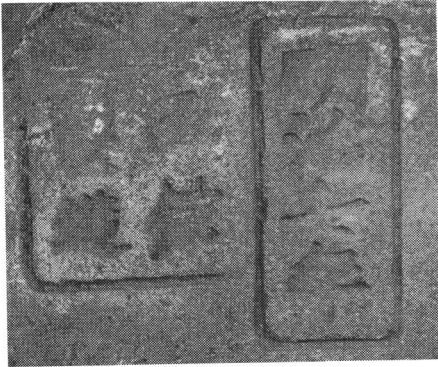


写真 73 同前刻印 [資料 No. 52]

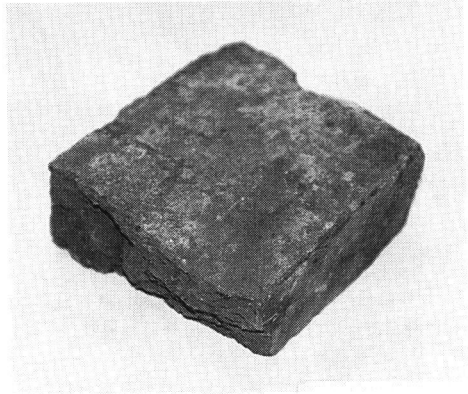


写真 74 開拓使茂辺地煉化石製造所製黒煉瓦 [資料 No. 53]



写真 75 同前刻印 [資料 No. 53]



054 - b

写真 76 金森誠之邸使用有孔煉瓦 [資料 No. 54]

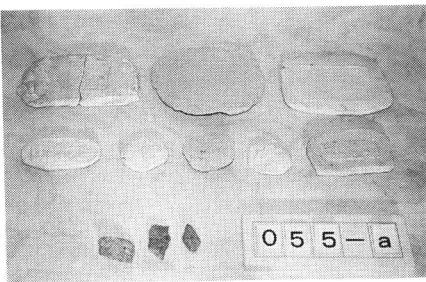


写真 77 煉瓦刻印石膏型及モルタル片 [資料 No. 55]

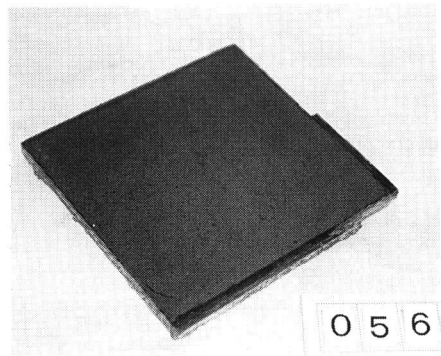


写真 78 住友横浜使用敷瓦(1) [資料 No. 56]



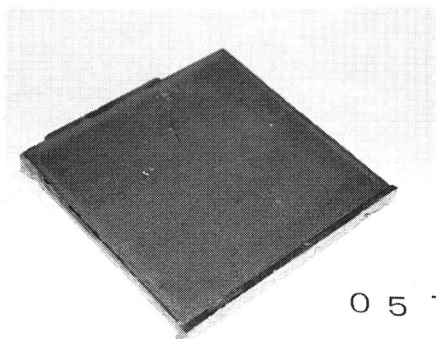


写真 79 住友横浜使用敷瓦(2)  
[資料 No. 57]

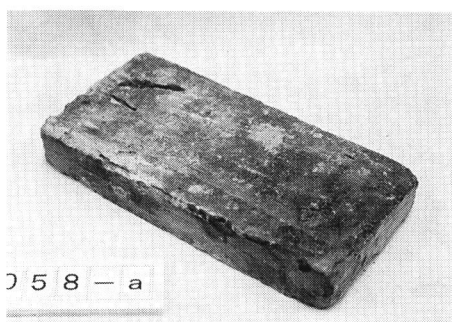


写真 80 蒟蒻煉瓦(1) [資料 No. 58]

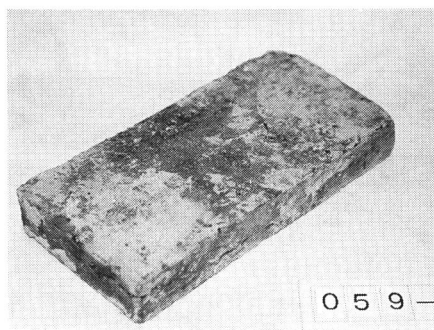


写真 81 蒟蒻煉瓦(2) [資料 No. 59]



写真 82 蒟蒻煉瓦(3) [資料 No. 60]



写真 83 蒟蒻煉瓦(4) [資料 No. 61]



写真 84 蒟蒻煉瓦(5) [資料 No. 62]

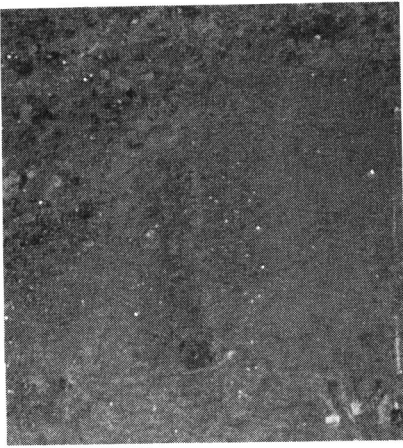


写真 85 同前刻印 [資料 No. 62]



写真 86 蒟蒻煉瓦 (6) [資料 No. 63]



写真 87 同前刻印 [資料 No. 63]

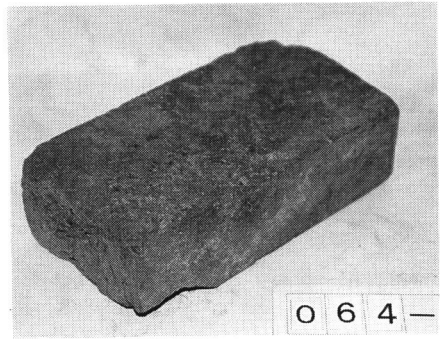
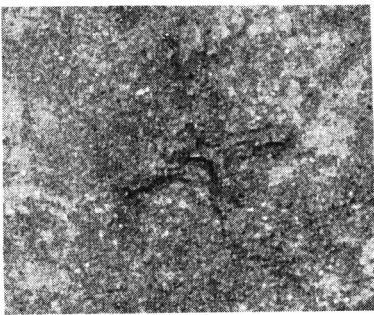
写真 88 横浜水道取水場使用煉瓦  
[資料 No. 64]

写真 89 同前刻印 [資料 No. 64]

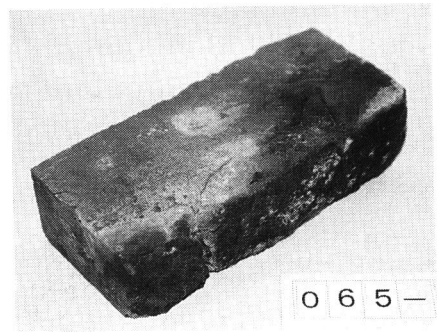
写真 90 安積鉄道トンネル使用煉瓦 (1)  
[資料 No. 65]



写真 91 同前刻印 [資料 No. 65]

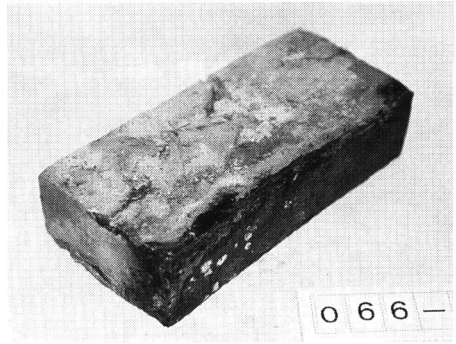


写真 92 安積鉄道トンネル使用煉瓦(2)  
[資料 No. 66]



写真 93 同前刻印 [資料 No. 66]

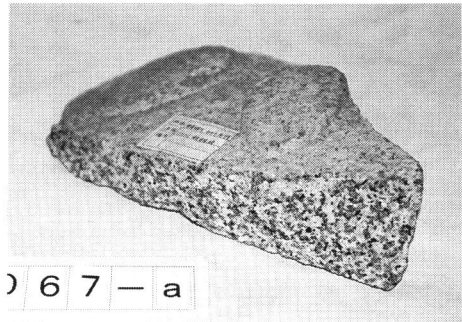


写真 94 東京銀行使用御影石 [資料 No. 67]

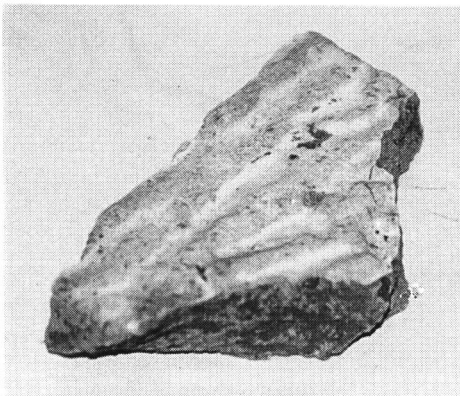


写真 95 研数学館使用タイル [資料 No. 68]

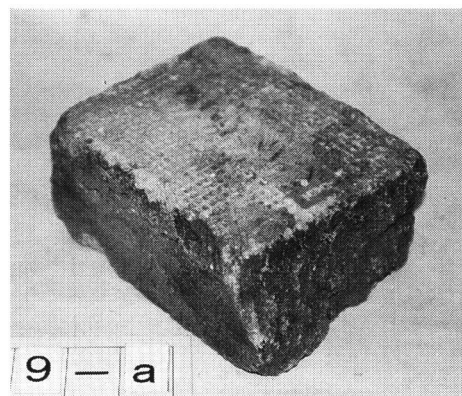


写真 96 「■T」刻印煉瓦 [資料 No. 96]



写真 97 同前刻印 [資料 No. 69]



写真 98 羅典神学校使用蒟蒻煉瓦 (1)  
[資料 No. 70]



写真 99 同前刻印 [資料 No. 70]



写真 100 荒木窯業製煉瓦 [資料 No. 71]

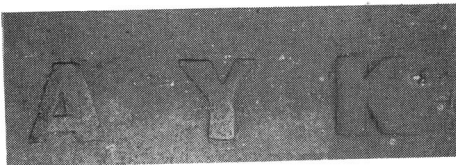


写真 101 同前刻印 [資料 No. 71]



写真 102 横須賀鎮守府測候所使用小菅集治  
監製煉瓦 [資料 No. 72]



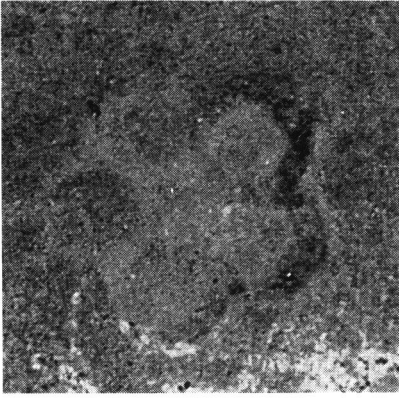
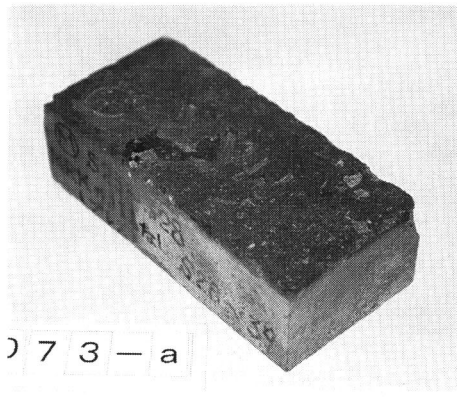


写真 103 同前刻印 [資料 No. 72]



073-a

写真 104 「MRK」刻印煉瓦 [資料 No. 73]

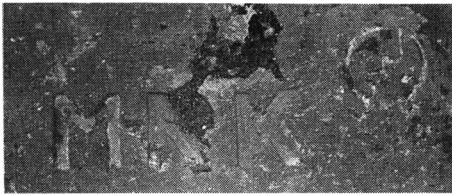


写真 105 同前刻印 [資料 No. 73]



074-a

写真 106 開拓使茂辺地煉化石製造所製煉瓦  
(3) [資料 No. 74]

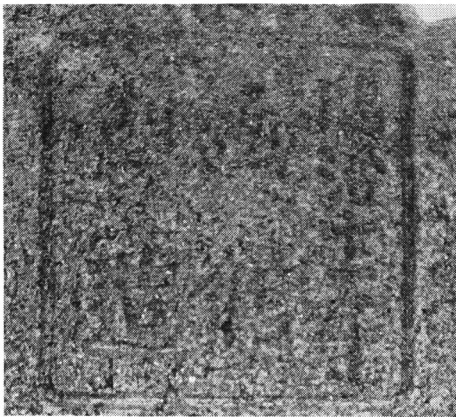
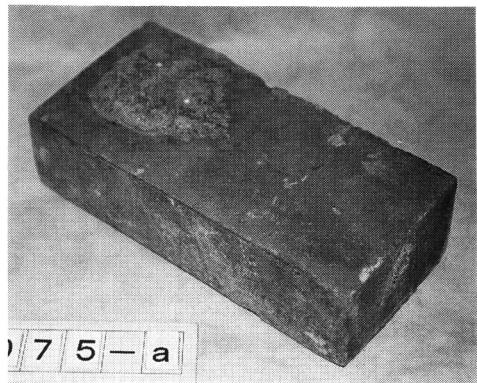


写真 107 同前刻印 [資料 No. 74]



075-a

写真 108 銀座煉瓦街使用煉瓦 (1)  
[資料 No. 75]



076-

写真109 荒木窯業製煉瓦 [資料 No. 76]

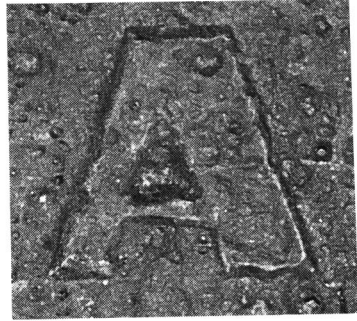


写真110 同前刻印 [資料 No. 76]

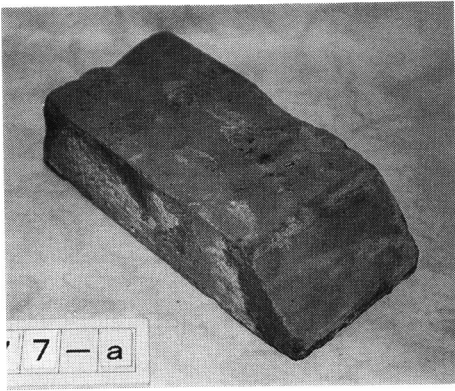


写真111 銀座煉瓦街使用煉瓦(2)  
[資料 No. 77]



写真112 菅島灯台使用煉瓦 [資料 No. 78]



写真113 同前刻印 [資料 No. 78]

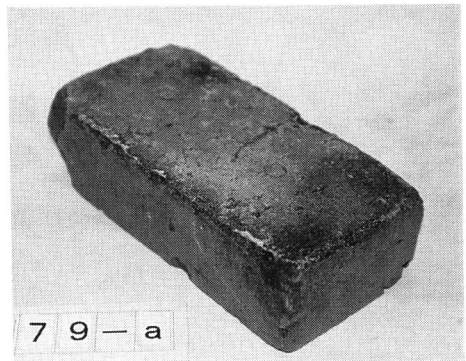


写真114 長崎水道本河内浄水場濾水池使用  
長崎監獄製煉瓦 [資料 No. 79]

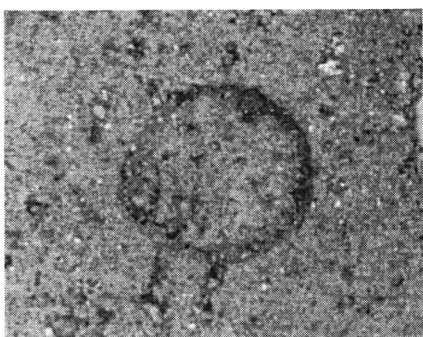


写真 115 同前刻印 [資料 No. 79]



写真 116 羅典神学校使用茑蕪煉瓦 (2)  
[資料 No. 80]



写真 117 同前刻印 [資料 No. 80]

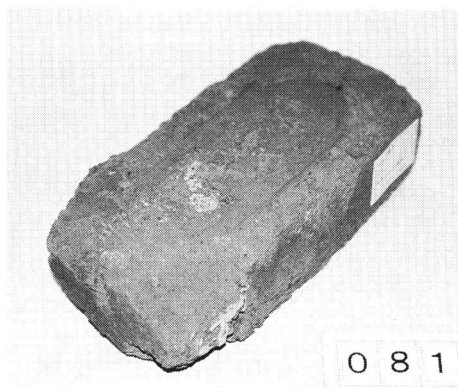


写真 118 ジェラルール瓦煉瓦石製造所製煉瓦  
[資料 No. 81]

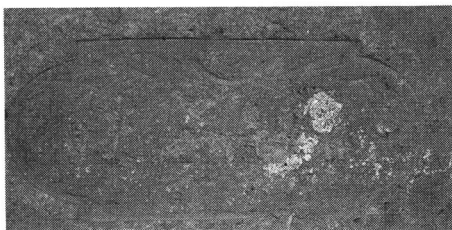


写真 119 同前刻印 [資料 No. 81]



写真 120 明治学院神学部校舎使用横浜煉化  
製造会社製煉瓦 [資料 No. 82]



写真 121 同前刻印 [資料 No. 82]



写真 122 横浜水道使用煉瓦(2)  
[資料 No. 83]



写真 123 小菅集治監製煉瓦 [資料 No. 84]

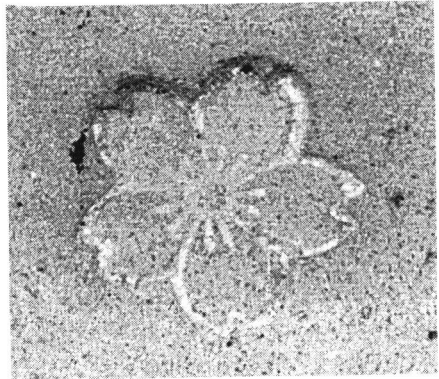


写真 124 同前刻印 [資料 No. 84]



写真 125 横浜下水道使用煉瓦  
[資料 No. 85]



写真 126 同前刻印 [資料 No. 85]





写真 127 大阪造幣寮使用堺製煉瓦  
[資料 No. 86]

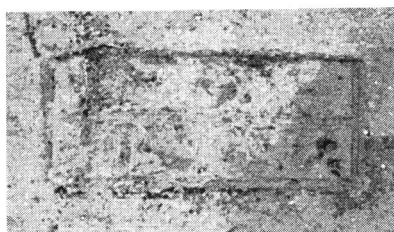


写真 128 同前刻印 [資料 No. 86]

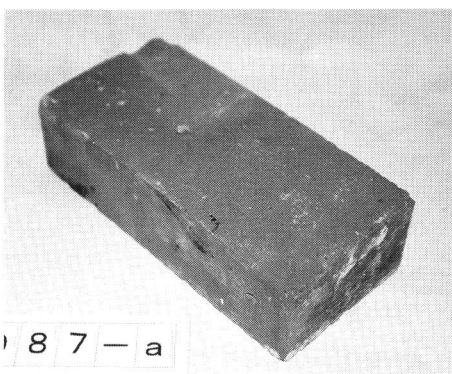


写真 129 吉名製煉瓦 [資料 No. 87]

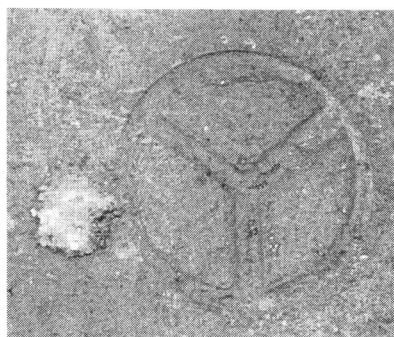


写真 130 同前刻印 [資料 No. 87]

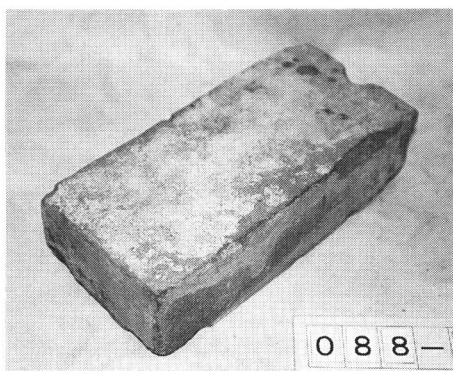


写真 131 千葉監獄使用小菅集治監製煉瓦(1)  
[資料 No. 88]

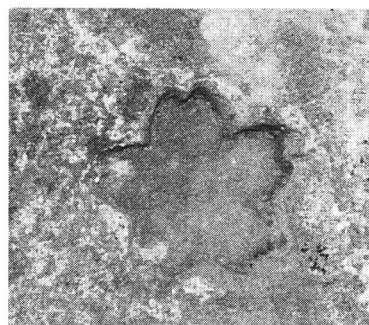


写真 132 同前刻印 [資料 No. 88]

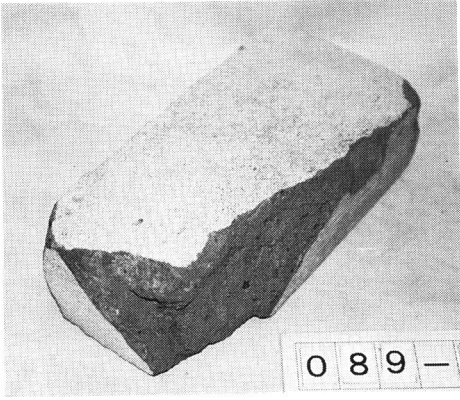


写真 133 千葉監獄使用小菅集治監製煉瓦(2)  
[資料 No. 89]

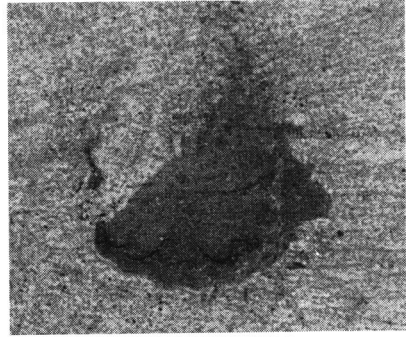


写真 134 同前刻印 [資料 No. 89]